

## 実践報告

### インターンシップ学外実習に関する調査－第3報－

太田あや子、森 喬夫、河合一武、杉山仁志、桂和仁、  
星川秀利、浜田琴美、大橋慶子 浦田憲二、文谷知明

### On the survey of students of internship in sports business-3-

Ota Ayako, Mori Takao, Kawai Kazutake,  
Sugiyama Hitosi, Katura Kazuhito, Hoshikawa Hidetoshi,  
Hamada Kotomi, Ohashi Keiko, Urata Kenji, Bunya Tomoaki

#### Abstract

The purpose of this paper is to clarify our student's needs to internship course in sports business. Students responded to questionnaire which has 20 items. The following results were obtained.  
1 Many students want to get information of their internship which accepts them before their practicum.  
2 Many students are satisfied with their internship and they recommended this course for their juniors.

キーワード：授業実践、学外実習、選択授業、インターンシップ、授業評価

Key Word: internship, course evaluation

## I はじめに

平成9年から当時の文部省が関係省庁と連携して提唱し推進してきたインターンシップは、今日広く企業や教育機関に受け入れられている。インターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義されている(文部省1998)。

文部科学省の平成14年度インターンシップ実施状況調査によれば、14年度は大学の46.3% (317校：30,222人)、短期大学では23.9% (117校：3,725人) で実施された。12年度に比較すると実施校学生数ともに増える傾向にあり、特に大学においては14年度に初めて参加者が3万人を越えたことが報告されている。

本学健康・体育専攻においても平成10年度ま

では2年次前期に「社会体育実習」の授業があり、平成10年度までは必修科目、平成11年度から選択科目となり、平成14年度生からは「インターンシップ」と科目名を変更して、助成金を得て1年次春期休業期間に現場就労体験実習を行っている。14年度は専攻学生の約半分の75名が履修した(うち、1名は実習辞退)。

本稿は2回目を迎えた「インターンシップ」の授業で学生が何を学び、何を得ているかを知り、従前の「社会体育実習」をふまえた学生指導の基礎資料を得ることを目的に、前回の調査とは対象学年、実施時期が異なっている点に着目して調査結果をまとめたものである。

## II インターンシップの授業概要

インターンシップの授業概要は以下の通りで

ある。健康・体育専攻1年生対象で、2単位、事前事後の学内授業が4回と、学外での現場実習が2月～3月（一部野外活動等は12月から1月）に原則1日8時間、10日から2週間の日程で行われる。実習中は毎日その日の実習内容や反省点を記入した実習日誌を現場の指導者に提出する。また事後の授業への出席が義務づけられており、その際に実習ノートの最終ページのレポートを作成し、実習先へのお礼状のコピーを添付して見まわり担当教員へ提出する。学外の実習先は8種類ほどの業態からなる大学側が提供する実習先や出身地の施設の中から、学生が希望する実習先を選び、教員が各実習先へ連絡をとって受け入れ先を決定する方法をとっている。この際には学生の第1希望を優先するように努めているが、学生の適性を考慮した実習先や、受け入れ先都合により希望がかなわない場合は別の実習先を教員が紹介することもある。

15年度の実習先所在地は盛岡から静岡までの広い範囲にわたっている。学内での授業は1年次に事前4回、事後に2年次オリエンテーション1回の計5回実施された。

学内授業や連絡、実習参観等の学生指導には健康・体育専攻の専任教員10名（教授1名、助教授4名、専任講師3名、助手2名）があたり、他の教員も実習先訪問指導に協力している。指導教員は「社会体育実習」の時と同様に、実習先との連絡、学生の事前指導や情報提供、学外実習中の訪問指導、事後の実習日誌の評価等を担当する。

### Ⅲ 調査方法

インターンシップに関する質問紙調査（20項目63問）を、2004年4月の2年次オリエンテーション終了後のまとめの授業で実施した。回答数は58名（実習参加者の72%）、男子16名、女子42名であった。

収集した15年度のデータを単純集計し、必要に応じて実習施設別、性別に分析した後に13年度の2年生の科目であった「社会体育実習」の

データと比較分析を行った。

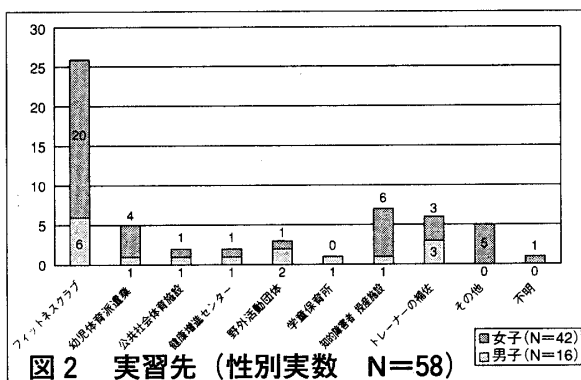
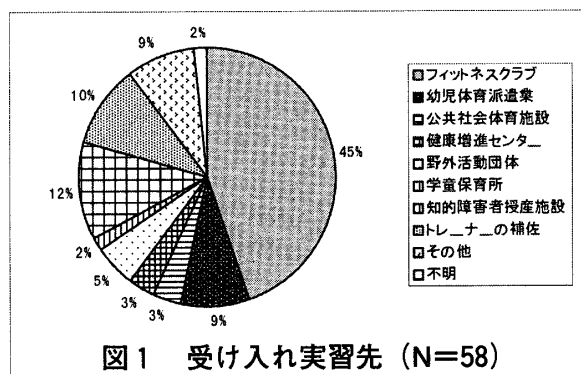
## Ⅳ 結果

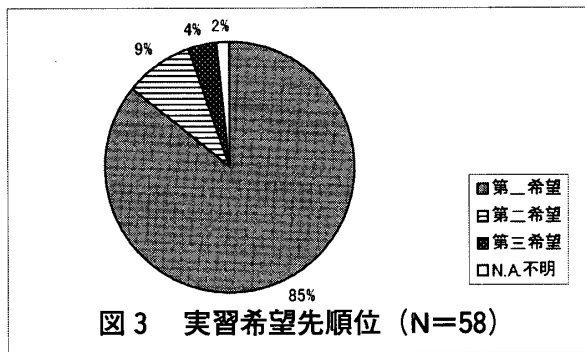
### 1. 社会体育実習の実状

#### 1) 受け入れ実習先

平成15年度の実習先は図1、図2のとおりである。15年度で一番多いのは民間のフィットネス・スポーツクラブで（45%、26人）、次いで知的障害者授産施設（12%、7人）、トレーナーの補佐（10%、6人）、幼児体育派遣業（9%、4人）、医療・健康増進施設（12.7%、8人）、野外活動団体（5%、3人）、公共社会体育施設と健康増進センター（3%、2人）であった。その他にはスポーツショップ4人等が含まれている。また、実際に7人が参加した学童保育での実習参加者のうち1人だけがこのアンケートに答えている。全体の85%の者が第1希望の実習先で実習を行っている（図3）。

13年度と比較すると、「フィットネス（スポーツ）クラブでの実習」の割合は同様な傾向を示し、「トレーナー補佐」が増加している。実際に「トレーナー補佐」を第1希望とした者は



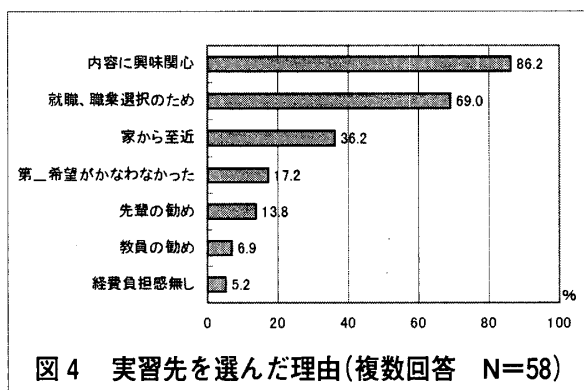


実際の参加者よりも多く、適性等を考慮して本人と担当教員で相談した後、6人に絞っている。これは学生職業希望が変化を受けたものと考えられる。第1希望の実習先で実習した者の割合が15年度はわずかながら減少した。

### 2) 実習先選択理由

実習先選択理由として用意した設問に「あてはまる」と答えた者の割合を図4に示した。15年度は、「内容に興味関心があった」とする者は全体の86.2%でもっとも多く、ついで「就職や職業選択のため」が69%、「実習先が至近であること」が36.2%となっている。「第一希望がかなわなかった」も17.2%あった。また、教員や先輩などの人の薦めはそれぞれ13.8%、6.9%とそれほど多くはなかった。

13年と比較すると、選択理由に大きな差はないが、「第一希望がかなわなかった」という消極的な選択理由が約3倍もあり希望実習先への学生の配当に問題点があったことがうかがえる。また、「実習先が至近であること」は18ポイント減少しており、実習内容等を優先して選んでいる傾向がみられる。

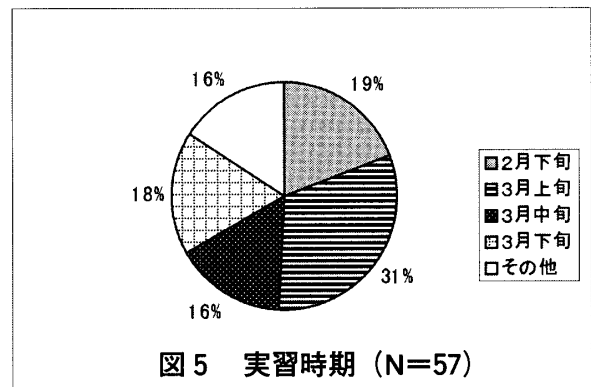


### 3) 実習期間時期

15年度の実習期間は、3月上旬の者が31.6%と最も多く、ついで、2月下旬(19.3%)、3月下旬(17.5%)となっている。また3月中旬やその他の時期もそれぞれ15.8%であった(図5)。

13年度には2年次夏季休業中に実施されていたため、単純に比較するのは難しいが、実習期間は比較的分散傾向にあるといえる。これは受け入れ施設が年度末を避けたり、児童の春季休業プログラム時に当てたりと受け入れの態勢の違いによるものと考えられる。1年次の春期休業期間には冬季野外活動実習があるため、その期間を避けて実習先に依頼することもあった。

また、実習施設や時期の決定は11、12月の平成15年内に決定した者が41%、平成16年に入り1月が25%、2月が21%、3月も9%あった。決定時期については、19%の者が「遅い」と感じており、受け入れ先の事情はあるとはいえ、春季休業時の予定を立てるためにもより早期に決定できるよう受け入れ先と折衝していく必要性がうかがえる。

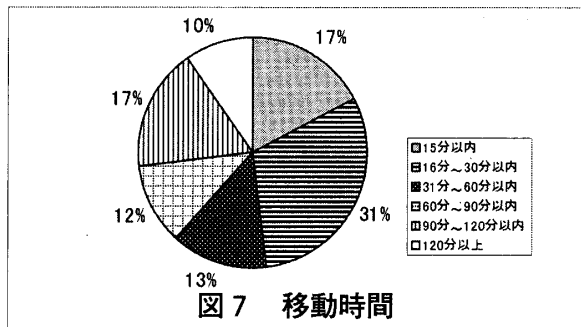
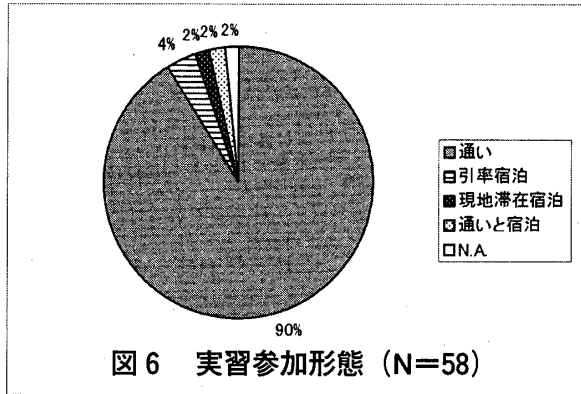


### 4) 実習の形態

15年度の実習形態は、毎日実習先に通う「通い」のが90%ともっとも多く、ついで子どもを引率して宿泊する形態が4%、キャンプ場などの野外活動施設に宿泊駐在する「現地滞在宿泊」型や、通いと宿泊の混合型はそれぞれ2%であった(図6)。それら実習先への移動にかかる時間は30分以内の者が48.1%をしめる一方で、1.5~2時間越えの者も4分の1程度いる

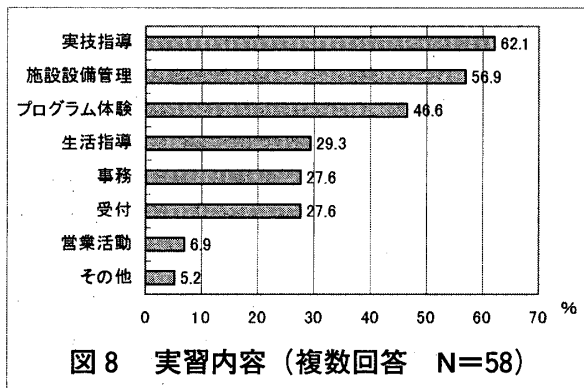
(図7)。

13年度と比較すると、「通い」の実習が増加した。長い通勤時間の多くは合宿先への移動などがある「トレーナー補佐」「野外活動団体」の実習生が含まれている。



### 5) 実習内容

実習内容は実習先により多様であるが、もっとも多いのがアシスタントも含めた「実技指導」であり全体の62.1%にのぼる(図8)、ついで清掃や備品の整理等の「施設設備管理」(56.9%)、実習先での様々なプログラムに参加する「プログラム体験」(46.6%)、子どもの躰などの「生活指導」(29.3%)、施設のフロント



での「受付」業務と書類整理やコンピューターへのデータ入力・データ整理、指導記録コメント記入などの「事務的作業」がそれぞれ約27.6%であった。

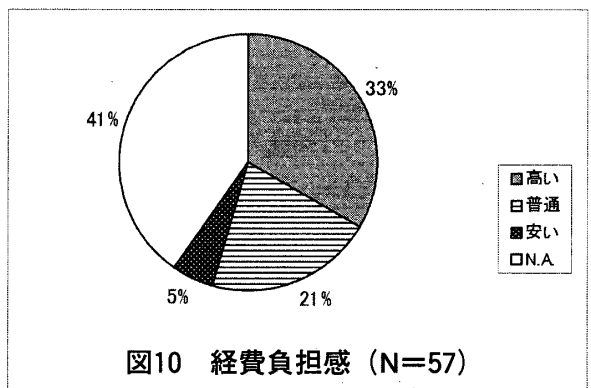
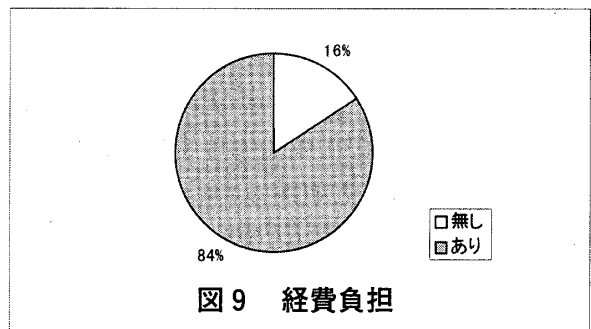
13年度と比較すると、実習内容には大きな違いはみられない。

### 6) 実習経費

82.8%の者が、実習に際し何らかの経費を負担しており(図9)、そのうちの56%がその金額を「高い」としている(図10)。主たる経費は実習先への交通費や食費で、平均値がそれぞれ10,168円(平成13年度:6,627円)と3,701円(平成13年度:5,074円)であった。最高額はそれぞれ50,000円、7,000円である。宿泊費を負担した者はなく、経費の負担金額は実習先によってかなり幅があることがわかる。

本年度に関しては、合宿先へ宿泊する「トレーナー補佐」がもっとも負担金額が多く、野外活動施設では宿泊費、食費は実習生が負担することはなかった。

13年度と比較すると、交通費が増加し、食費が減少した。



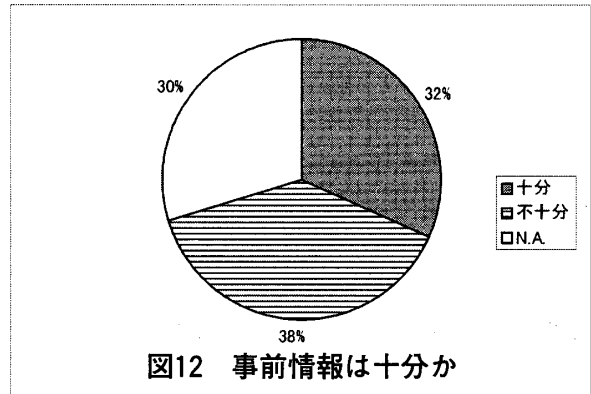
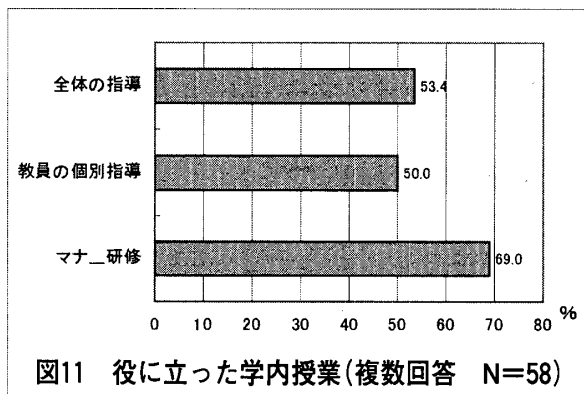
## 2. 事前授業に関する項目

15年度も例年同様学外実習へ出る前に履修者全員を対象に事前の授業が3回行われた。第1回目と第2回目は実習先へ提出する関係書類の作成を中心とした内容で11月に、第3回目はマナー研修と題して社会人としての実習先での行動の注意点やマナーについて、セントラルスポーツ株式会社マリンレジャー事業部から外部講師を招いて講演を1月に行っている。また、学童保育関係者には別に学童保育の代表者の講演会を実施した。また、従来は集団指導で行っていた書類確認や実習先への連絡方法などの指導は、この授業が時間割からはずれたことをうけて、11月から実習開始までに実習先別に担当教員が学生に個別に指導した。

### 1) 学生による学内事前授業の評価

これら事前の学内授業が実習に役立ったかどうか学生の評価をまとめたものが図11である。15年度は、3項目全てについて約半数の学生が「役立った」として、外部講師によるマナー研修(69%)、教員の個別指導、全体指導がそれぞれ50%、53.4%であった。これらの指導から得た実習の事前情報については38%が「不十分であった」とした、「十分であった」をわずかながら上回った(図12)。

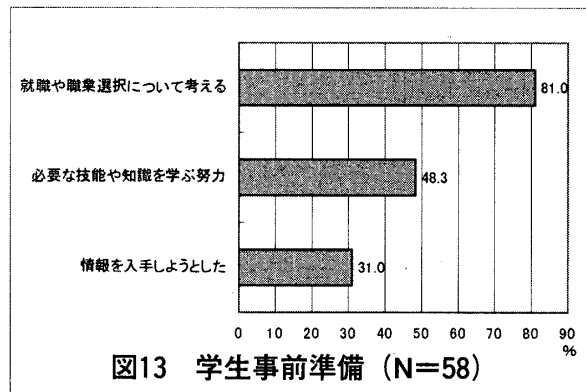
13年度を比較すると、事前指導について役立つと感じた者は半数を超えてはいるものの、教員の個別指導に改善が必要なことがうかがえる。



### 2) 学生の事前準備状況

15年度の学生自身が行った事前準備についてまとめたものが図13である。就職や職業選択について考えた者が81%、具体的に実習に必要な技能や知識を学ぶ努力をしたとする者は48.3%、自ら実習に関する情報を手に入れようとした者は31%であった。

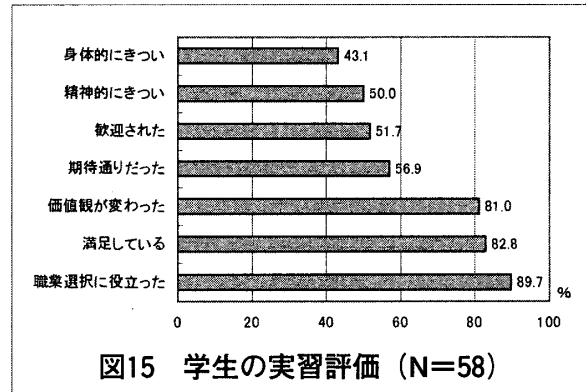
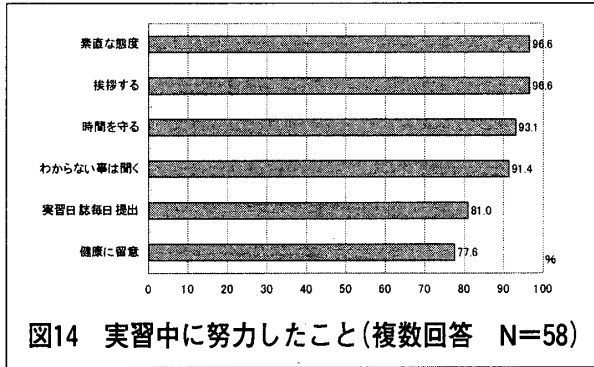
13年度と比較すると、全ての項目で事前準備をした者は増加し、積極的に取り組もうとする姿勢がうかがえる。その一方で、具体的な知識、技術や情報の入手については、3割程度と充分とはいえない状況が続いている。



## 3. 実際の実習に関する項目

### 1) 実習中に努力したこと

13年度に実際の実習中に学生が努力した事項についてまとめたものが図14である。最も多くの者が努力したことは「挨拶をする」と「素直な態度で実習に臨む」が96.6%であった。ついで「時間を守る」(93.1%)、「わからないことは聞く」(91.4%)、「実習日誌を毎日提出する」



(81%)、「健康に留意する」(77.6%)であった。

13年度と比較すると、大きな違いは見られないが、「挨拶」が人とのコミュニケーションの第一歩であることを強調されたマナー研修の外部講師の指導が反映しているものと思われる。一方、風邪やインフルエンザ、過労等で欠席した者が従来よりも多かったことから「健康」の維持の重要性を伝えていく必要が理解された。

## 2) 学生による実習の評価

15年度学生の実習に対する評価を図15にまとめた。50%の者が実習は「精神的にきつい」とし、43.1%の者が「肉体的にきつい」としている。51.7%の学生が実習生としての自分が実習先に歓迎されたと感じている。89.7%の者が実習は「職業選択に役立った」と評価しており、56.9%の学生が「実習は期待通り」とし、82.8%が実習に満足しており、81%が「価値観が変わる影響を受けた」としている。

13年度と比較すると、実習先で「歓迎されていると感じた」者は減少したが、「職業選択に役立ったとした」者は増加した。これは実習時期が2年生の夏なのか、1年生の春なのかによるところが大きいと考えられる。夏は多くの実習先でイベントや教室が開催される時期であるため実習生は貴重な戦力として受け入れられる傾向があった。また、1年生であるため、指導者としての自信もまだ十分とはいえないことも関連していると思われる。その一方で、2年生の4月には中盤戦に入る就職活動を考える際にこの実習が大きな影響を与えていることがわかる。

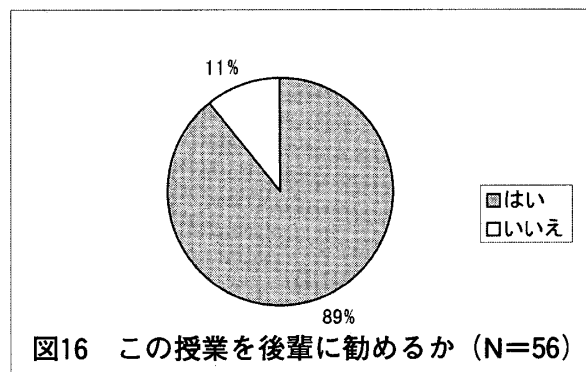
## 4. 後輩へのアドバイス

83.6%の学生がインターンシップの履修を後輩に勧めるとしていた(図16)。

勧めないとした者6名のうち4名は理由の記入があり、精神的なつらさをあげた者2名、第1希望ではなかったこと、指導よりも清掃などの管理業務が多かったことをあげた者が1名ずつであった。

勧める理由では、例年と同様に指導者や実施施設の間関係のよさ、実習内容や実習指導の充実、会員さんや子ども達とのふれあい、自分を見つめる機会、学校ではできない体験であることなどがあげられている。

13年度と比較しても、大きな違いはみられない。



## 5. 実習実施の時期について

実習時期についての意見は「現状でよい」とした者が79.3%、「もっと早い時期がよい」が20.7%であった。「現状でよい」とする理由は、春休みは日数的に余裕があること、1年間であつても専門の勉強を終えた後が安心であるこ

とをあげている。「もっと早い時期」を望む者はその理由として、就職活動に関する記述が5人と最も多く、会社説明会と日程がぶつかることや、落ち着いて活動できない、就職について体験をとおして考えるためには時期的に遅いことなどをあげている。

## V 考察

調査結果から15年度インターンシップを検討し、今後の社会体育実習授業指導への課題をまとめると以下ようになる。

### 1. 履修学生のさらなる意識の向上

学生の職業意識の啓発は効果的な実習に欠かせない。旧文部省インターンシップ等学生の就業体験のあり方に関する研究会報告(1998)研究会報告では、インターンシップ受け入れ企業が受け入れる学生の条件として「明確な目的意識・参加意識」は最も重要であるとし、大学で学んだ専門知識や成績の内容よりも重視されている。

15年度の調査からもインターンシップを履修した学生の多くは1年生であるにもかかわらず、従来の2年生が持っていた参加動機や変わらない態度で実習に取り組んでいることが理解された。短期大学生の就職活動の時期が早期化したことによって、1年生の春から活動に取り組む必要がある学生にとってこの実習は、職業選択のためにより大きな意味と影響力を持つことが理解された。

また、約9割の者が後輩に履修を勧めるとしていることから、専門科目の選択科目ではあるために履修時にすでに実習参加への意識が高い者が、この実習をとおしてより多くのことを学びそれを他者にも広げるべきだと感じている様子がうかがえる。

今まで提供してきている情報に加えて、このような先輩の体験を後輩に伝えることが、より意欲的な履修生を増やすのに役立つと考えられ実施の必要性が理解された。

### 2. 学内での事前事後指導の充実

学生の事前授業の評価は13年度と同様であった。しかし、その一方で事前情報が充分であったとする学生はいまだ半数に満たない状況から、個別の事前指導の充実、特に各施設に応じた情報提供や指導が求められているといえよう。具体的には学生自身のインターネットの活用による情報収集や本調査の自由記述欄に示された施設ごとに必要な知識技術の学習を支援していくことなどがある。

1年次春季休業中に行われるインターンシップを運営して2回目を迎えたが、担当教員の個別指導への学生の期待が高いわりには十分に答えているとは言い難く、より充実した指導にむけて努力すべき点が明らかとなった。

### 3. 実習実施時期の再検討

文部科学省の学生の平成14年度の報告では職業選択に関与するインターンシップ等企業実習の授業は、大学では3年生(69.5%)で夏期休業中が多く(70.2%)、短期大学では1年生(65.4%)で春期休業中が最も多い(32.1%) (文部科学省2003)。これは就職活動の早期化、長期化にも関連している。現状では短期大学生の就職活動は2年生1月には会社や説明会への参加登録が始まり春休みに会社説明会と試験のピークを迎えている。そのため、学生各自の就職適性を考えることを目的としたインターンシップを行うのならば、現状の1年生の春休みでは就職活動には遅いという考え方がある。しかしながら、専門学生として1年間程度勉強することにより職場で理解できることも多く、学生としての落ち着きが出てくる時期ともいえる。15年度生は実習前に「トレーニング論実習」や「エアロビクダンス」や「水泳」、「サッカー」といった指導現場に直結する実技や、「発達と学習の心理」や「スポーツ解剖学」など指導対象を理解するための講義科目を履修して本実習に臨んでいる。特に「トレーニング論実習」や「スポーツ解剖学」は従来から実習生に必要であることが受け入れ先からも指摘されていたことであり、15年度生から実習前の履修が実現した。

今後は春期休業中のメリットと就職活動支援との関連を考慮し、関係部局とも連携して時期を考えていくとともに、できるだけ休業中の早い時期に実施できるように受け入れ先と交渉することも必要となろう。

## まとめ

平成16年度入学生からは「インターンシップ」の授業は健康・栄養専攻学生も対象に実施する予定である。学生の意欲や知識技術をよりいっそう高め効果的な実習にするために、大学や教員の準備など体制を整えることが急務となっている。本調査によって明らかになった指導等の改善点をふまえ、授業改革や学内関係者と連携した学生指導を行って行きたいと考えている。

## 参考資料

- 1) 文部省 (1998) インターンシップ等学生の就業体験のあり方に関する研究会報告
- 2) 文部科学省 (2003) 大学等における平成14年度インターンシップ実施状況調査結果
- 3) シェイク(株)04/05卒インターンシップ調査レポート インターンシップの成功モデル・失敗モデル



## 資料1 インターシップへの意見(自由記述)

1	ものすごく勉強になりました。
2	就職に役立つかどうかわからないけれどどういった仕事をしているのが分かってよかった。
3	就職活動にとっても役に立つと思うのでこれからも実施した方が良く思う。
4	本当に疲れたけど、やりがいがあると思った。
5	今回インターンシップに行けてとても勉強になりました。もっと勉強して知識を入れた状態でインターンシップに行けたらもっとよかったと思います。
6	楽しかった
7	このような体験はよかったと思います。あとは、もっと色々な実習内容があった方がよい
8	今回の実習は嫌な事も良かった事も両方あった大変だったけど、やりとげられて良かった。普段体験できない、貴重な体験が出来たと思う
9	職場に出て本当の仕事というのが見れてモノの見方が変わった。
10	社会を知る第一歩となるから、ぜひ体験したほうがいい
11	これから後輩の方にたくさん経験してほしいと思う。
12	聞いていたよりも楽しかったし、仲間と仲良くできた。
13	いい経験をすることができると思う
14	インターンシップに関しての意見はないのですが、教員の見回りがなかった気がします。
15	すごく社会の勉強になってよかった。
16	良い実習だと思います
17	もっと学校がいろんな所に行けるようにしたらもっとよい
18	楽しかった。もっと色々な経験が出来ると思っていた。
19	将来の自分の仕事のことなどを考えるのにいい経験になったと思う
20	精神的にやられても、子供たちを見たら元気になるものすごく楽しかった。感動した。
21	色々勉強になって、行ってよかったと思う。
22	私が行ったところはインストラクターやコーチの実習で、子供とのコミュニケーションが課題だったと思う。周りのみんなとはちょっとちがう体験をしたと思う。
23	もう一回やりたい。
24	一度、現場にでて社会というのを知る機会としてとても役に立ったと感じている
25	就職のことを考えると、社会ではどのようなことをしているのか分かったので良かったです。
26	インターンシップを通し1度はやってみたかった仕事が出来てよかったです。すごく良い体験が出来ました。
27	インターンシップは実際に職の体験ができるから就職に役立ってよい。
28	勉強になった
29	仕事をするにあたって改めて難しいことだと感じる事ができた。これから先、もっと真剣に考えようと思いました。
30	想像以上の体験ができた。これは行って体験しなければわからないと思った。
31	行く前と行った後での、自分が少し変わった気がした。とてもよかった。
32	最初は嫌だと思ったけど、行ってみたらみんなイイ人で行くのが楽しくなった。
33	自分にとって良い経験になりました。
34	本当に充実していました。インターンシップは絶対やるべきだと思います。とても楽しかったです。
35	精神的にも社会的にもたくさんのことを学びました。この実習に参加でき、少しずつですが、自分のやりたいことが見えてきたので、それに向けてがんばりたいと思いました。
36	仕事、接客などとてもいい経験ができたと思います。
37	本音としては、かなりキツかったけど、実習を通していろいろなものを得たのでとても良い経験になった。
38	インターンシップを受けて、とても良い経験が出来て、良かったです。また、何かの機会があったら、このような場に参加したいと思います。
39	インターンシップを通じて、とても良い経験が出来た。子供と接することがもっと好きになったし、こういう職業につきたいと思いました。
40	楽しくできて、フィットネスクラブに前より興味がわいた。
41	いい経験ができました。
42	やってよかった。
43	とても将来の決める上で役立った。
44	緊張しすぎてしまい、自分を出せなかったが、いい体験をしたと思います。
45	とてもよい体験ができた。みんなもぜひやってほしい。
46	とても、いい経験ができ、役に立った
47	楽しくできました!
48	楽しい時もあったし、つらいときもありました。